

◆編集後記

以前「文字が小さすぎる」というご意見をいただきました。限られた紙面にレイアウトするのは難しく、試行錯誤の日々です。

(Maruyama)

現在第10回POPコンテストを開催中です。多くの方々にご参加いただければと思います。皆様からの素敵な作品のご応募お待ちしております。

(Tsushima)

図書館では、貴重資料のデジタル化を実施しております。今回表紙の写真は官立弘前高等学校資料群のなかで文部省報告した昭和15年度の図書館統計です。また、戦時中の資料には、資源不足のため学生服の釦や銀製盃を供出するよう通知した文書など貴重な資料がたくさんあります。ご覧いただければ幸いです。

(Sasaki)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第59号

発行日：令和6年5月31日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会

〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3163

FAX 0172-39-3171



◆◆◆◆◆図書館員ちよこっとコラム◆◆◆◆◆

附属図書館と弘前大学に関係している私の気にいっている3つのクラシック音楽を某番組で俳優が演じたように紹介します。

一つ目は、リヒャルト・ワーグナー先生の「ニュルンベルクのマイスタージンガー」です。この曲は、本館の開館時に流れております。毎朝この曲を聴きながら教育学部側の玄関を解錠し、館内の掃除をしております。今日も一日頑張ろうという気分になります。また、ワーグナーといえば、フランシス・フォード・ Coppola監督の「地獄の黙示録」で使用された「ワルキューレ」が有名です。クラシック音楽に興味がない人でもこの曲は知っている人が多いと思います。

二つ目は、アントニン・ドヴォルザーク先生の「交響曲第9番「新世界より」第2章（家路）」です。医学部分館の開館時に流れております。弘前大学に異動し、最初に勤務（30年前）したところが医学部分館でした。当時は、午後8時閉館で学生アルバイトもなく職員が交替で勤務していました。この曲を聴き、早く自宅へ帰ろうと思いながら閉館作業を行っていたことが思い出されます。

(ささき ただし)

この曲は別名「遠き山に日は落ちて」といわれるように太陽がゆっくり沈む情景が浮かびます。全国の市町村で夕方のチャイムとして利用されているようです。

三つ目は、エドワード・エルガー先生の「『威風堂々』第1番」です。大学の入学式や学位授与式で弘前大学フィルハーモニー管弦楽団が演奏しています。この曲を聴くとこれからおごそかな式が始まるという感じがします。コロナ禍が明け、通常の体制にもどり今年の入学式で演奏されました。多くの学校で入学式や卒業式で演奏されているようです。

コロナが広まったことでクラシック演奏会を聴く機会がなくなりました。演奏は、テレビ・ラジオ等で聴くことができますが、生演奏が一番です。上記3曲のうち、プロの演奏会で「新世界より」数回、演奏を聴きましたが、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」や「威風堂々」を聴いたことがないので、首都圏の有名なホールで聴きたいと思っているこの頃です。

論文投稿時の掲載料(APC)支援 2024.1~

弘前大学では2024年1月より、Wiley社及びOxford社との契約において、電子ジャーナル購読料とAPCを包括した転換契約(Read&Publish契約)を導入しています。これによるオープンアクセス出版支援の詳細については、下記の学内限定ページをご覧ください。

◆Wiley社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_wiley/ (※学内限定)

◆Oxford社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_oxford/ (※学内限定)